

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 掛川市立中央小学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	第1学年83名、第2学年92名、第3学年93名 第5学年108名、第6学年105名 計481名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（低学年＝休み時間、高学年＝総合的な学習） ② 行事名（低学年＝パラリンピアンとふれ合おう：交流会 高学年＝パラリンピアンの方から 学ぼう：キャリア教育） ③ その他 （運動場の改修工事が完了し、新運動場が9月から使えるようになった。新運動場オープニングを記念してのイベントとして、パラリンピックメダリストの山本選手といっしょに走ったり走る姿を披露していただいたりすることで、新運動場でこれから思い切り運動する意欲を育むことができるようなきっかけとする。） ※山本選手は左肩の脱臼手術を終え、11月までは運動制限があるため、走ることはやめることとした。陸上指導は可能。 （以後、斜文字部分に変更点を表している）
4 目標 （ねらい）	パラリンピック陸上競技メダリスト、冬季スノボパラリンピアンである山本篤選手の生き方や考え方に触れ、夢をもつこと・夢実現に向けて努力することの素晴らしさや価値について学び、これからの自分の将来や生き方について考えるきっかけとする。
5 取組内容	1 1, 2, 3年生との交流（体育館にて） （昼休み13:10～13:40） (1) 自己紹介、義足についての説明：10分間→15分間 (2) 義足（日常用・競技用）で走る（→動く）姿を披露：5分間 (3) 各学年代表児童と競走：10分間→実施しない (4) 子どもたちへの「夢」メッセージ：5分間→10分間  

2 5, 6年生への授業（5, 6校時13:45～15:25）

（1）子どもたちへの講話（体育館にて）：30分間

<内容>

- ・自己紹介
- ・義足の説明
- ・競技大会で活躍する映像視聴
- ・夢実現に向けた過程、取組、心情 など



以降、運動場にて

（2）短距離走のミニ実技指導：35分間（休憩含む）

※10月に掛川市小学校陸上競技大会に参加する6年児童に、短距離走のトレーニングメニューを紹介してもらったり、実技を通してポイントなどを教わったりした

※山本選手による指導のメインは6年生。5年生は次年度の陸上練習のために体験として行った。



（3）6年児童代表リレーチーム（男女各1チーム）と

山本選手チーム（教員4名）でリレー

対決：5分間



実施しない

（4）子どもたちへの「夢」メッセージ：10分間

（5）児童代表の感想発表



6 主な成果

<児童の感想>

低学年児童

- ・メダルのいろでおとがちがうのすごかったです。あしのさきがまるかったです。
- ・いいひとだな。
- ・あつしせんしゅみたいにあしがはやりたいです。

	・わたしもゆめをもちたいです。 ・わたしもいろんなことにちょうせんしたいです。 ・メダルをさわらせてくれるとは思いませんでした。またさわりたいです。 高学年児童 ・すごくいい時間でした。「自分の足がなくてもよかった。」と言っていました。一番驚きました。でも、それだけ前向きに生きているんだと思いました。山本選手だからこそとれたメダルだと思いました。前向きな気持ちとあきらめない気持ちを私ももっていきたいなと思いました。 ・私は義足をつけた人を初めて見ました。義足と聞くと痛いというイメージが強かったのですが、山本選手と会ってイメージが少し変わりました。「足がなくなって良かった」と言っていたのを聞いて、「道は一つじゃない、いろんな可能性があるんだ」と思いました。金メダル目指してがんばってください。 上記の児童感想からも分かるように、次のような成果があった。 ・スポーツ、パラリンピックに対する興味関心の向上 ・スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 ・夢をもつこと、夢実現に向けて努力することの素晴らしさや価値について学び、これからの自分の生き方について考えること
7実践において工夫した点 （事業の特色）	・低学年と高学年に分けて授業を行うことで、発達段階に応じた理解を図ることができるように計画を立てた。 ・講話、実物披露、実技指導を組み、児童の興味関心や集中力が持続するような構成にした。 ・地元（掛川市）出身の方を講師に招くことで、児童にとってより身近に感じられるように講師を選定した。
8主な課題等	・講師である山本選手がたまたま、肩の脱臼手術後でリハビリ中であったため、実際に走る姿を披露していただくことができなかった。トップアスリート故、その時々コンディションにより活動内容の微調整が必要であった。また、トップアスリートであるので、スケジュールの都合上、4年生が校外学習で不在日と講師の空き日が重複してしまった。トップアスリートを講師にお招きする際の調整の難しさを感じた。 ・各種の報道機関が当日の様子を取り上げてくださりありがたかった。一方、報道内容は、「地元出身パラ山本選手が小学生に夢の大切さを伝えた」ことに重きが置かれ、「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」としてのねらいや意義が報道されなかった。
9来年度以降 の実施予定	・障がい者スポーツを実際に児童が体験できる場と時間を設けたい。 ・身近にいる障がい者の方々をお招きした福祉学習をより一層充実させる。 ・山本篤選手の今後の動向を知らせる掲示コーナーを校内に常設する。